

### 第3次稚内市総合計画 施策実施状況調査

#### 04 自然環境に配慮したまちづくり

#### 03 都市環境の整備

#### 03 道路、河川の整備

主要施策	施策実施状況(※1)						問題点、課題
	実施 状況	進捗率		第4 次の 方向 性	小項目の総合的評価		
		(%)	ペース		評価	評価内容	
10 国道の整備促進 (土木課)	4	70%	2	1	2	・国道の整備については、部分的な改良が実施中であり、市街地の4車線化が完了している。	
20 国道40号線の規格の高い道路の建設促進 (土木課)	4	20%	2	1		・国道40号では規格の高い道路ではないが、「防雪事業」として現在事業着手している。	
30 道道の整備促進 (土木課)	4	65%	2	1		・道道の整備については、部分的な改良が実施中であり、稚内猿払線が開発道路指定から北海道事業主体として現在事業実施中である。	・道道整備については、稚内猿払線として市道増幌幹線一部の道道昇格による事業要望を行っている。
40 市幹線道路の整備促進 (土木課)	4	90%	2	2		・稚内はまなす線、朝日5条通、仲通道路整備事業は完了済みである。大黒3号通及び、ノシャップ5条通道路整備事業は平成19年から平成21年に、栄2条通道路整備事業は平成20年から平成24年に整備予定である。緑富岡環状線及び本通南線歩道整備事業は整備未定となっている。平成18年時点で改良済み市道延長は805km、未改良延長は342kmとなっている。	・市幹線道路整備については、概ね整備完了しているが、再整備及び改修の時期であり、安全性や民生安定を判断したうえで、整備計画を立案していく必要がある。また、安全で快適な道路づくりのためにも、道路の維持管理が必須となっている。 ・生活関連道路の再整備及び維持改修の継続実施中である。

### 03 道路、河川の整備

主要施策	施策実施状況(※1)							問題点、課題
	実施状況	進捗率		第4次の方向性	小項目の総合的評価		評価内容	
		(%)	ベース		評価			
50 都市街路事業の整備促進 (都市整備課)	4	30%	2	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮見1丁目地域は、市内南地区を中心に位置し、住環境にも恵まれ、市民ニーズの高い地域であり、用地測量・敷地整備を行い、用地売却を図っており、平成16年度6区画、平成18年度3区画、平成20年度5区画を予定していたが、平成18年度、平成20年度については1年先送りし平成21年度には完了予定となっている。</li> <li>・平成18年3月末での都市計画道路は28路線、46,020mが計画されており、改良及び舗装済延長は32,000mとなっている。</li> <li>・最近の街路事業は、潮見、栄地区の生活道路整備を目的に、分断されていた生活道路の整備、町並みの形成を行う天北通街路整備事業を平成14年度より5カ年計画で事業着手し事業延長580mが完了している。</li> <li>・東地区居住者の幹線アクセス道路として、又、稚内こまどり病院、図書館利用者の利便性が高くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の景観や自然環境の保全に配慮しながら、幹線道路や生活関連道路の整備をしていかななくてはならない。</li> <li>・都市街路の天北通の整備については一部完了しているが、今後、街路決定路線網の検討が必要である。</li> </ul>
60 道路交通安全施設等の整備 (土木課)	4		4	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路交通安全施設等の整備については、経常的予算にて整備継続中である。</li> </ul>	
70 河川の整備促進 (土木課)	4	10%	2	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一の沢河川改修事業(ウエンナイ水系2級河川の朝日2号橋等を新設整備)は完了済みであるが河川護岸の整備は北海道土木現業所で平成17年度から着工し、整備完了時期は未定である。クサンル川河川改修事業は不透面積の拡大により従来の保水・湧水機能が減じられ、流量の増大を招いているため、北海道土木現業所にて平成19年度から平成45年の予定で1.05kmを整備する予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の管理河川である普通河川(148本)については事業計画は無く、同じ管理河川である準用河川(9本)の一河川については、河川の一部を道河川(二級河川)に昇格し、北海道の事業主体で親水性を考慮して整備中である。</li> <li>・河川は、水辺環境の保全・安全性の観点から、今後も整備が必要である。合わせて整備済みの橋梁や河川護岸の維持管理も必要である。</li> </ul>